

対談「谷崎文学と映画」

弁護士 坂和章平

第1 プロフィール

<ホームページ> http://www.sakawa-lawoffice.gr.jp

- 1949(昭和24)年1月 愛媛県松山市に生まれる
- 1971(昭和46)年3月 大阪大学法学部卒業
- 1972(昭和47)年4月 司法修習生(26期)
- 1974(昭和49)年4月 弁護士登録(大阪弁護士会)
- 1979(昭和54)年7月 坂和章平法律事務所開設  
(後 坂和総合法律事務所に改称) 現在に至る

<新聞記事>

- 1987(昭和62)年9月27日付朝日新聞『ひと』 資料1
- 2001(平成13)年10月12日付朝日新聞夕刊『17歳のころ』 資料2
- 2004(平成16)年2月13日付朝日新聞夕刊  
『映画「ニューオーリンズ・トライアル」から裁判員制度を考える』 資料3  
10月28日付朝日新聞『青年の夢 育つまちを』 資料4
- 2005(平成17)年6月3日付産経新聞『法廷で弁護より銀幕の批評』 資料5
- 2006(平成18)年10月16日付日経新聞『谷崎潤一郎の旧居 復元に奔走』・・・たつみ都志  
11月20日付日経新聞『法曹の目で映画評論』 資料6~7

<芦屋中央地区>

1995(平成7)年9月~2000(平成12)年 芦屋中央地区まちづくり協議会の顧問

<受賞>

- 2001(平成13)年5月 日本都市計画学会「石川賞」
- 同年同月 日本不動産学会「実務著作賞」

<都市問題に関する主な著書>

- 『苦悩する都市再開発~大阪駅前ビルから~』(都市文化社・1985年) 共著
- 『岐路に立つ都市再開発』(都市文化社・1987年) 共著
- 『都市づくり・弁護士奮闘記』(都市文化社・1990年) 単著
- 『震災復興まちづくりへの模索』(都市文化社・1995年) 共著
- 『まちづくり法実務体系』(新日本法規・1996年) 編著
- 『実況中継 まちづくりの法と政策』(日本評論社・2000年) 単著
- 『Q&A 改正都市計画法のポイント』(新日本法規・2001年) 編著
- 『実況中継 まちづくりの法と政策 PART II—都市再生とまちづくり』(日本評論社・2002年) 単著
- 『わかりやすい都市計画法の手引』(新日本法規・2003年) 執筆代表
- 『注解 マンション建替え円滑化法』(青林書院・2003年) 編著
- 『改正区分所有法&建替事業法の解説』(民事法研究会・2004年) 共著
- 『実況中継 まちづくりの法と政策 PART III—都市再生とまちづくり』(日本評論社・2004年) 単著
- 『Q&A わかりやすい景観法の解説』(新日本法規・2004年) 単著
- 『実務不動産法講義』(民事法研究会・2005年) 単著

『実況中継 まちづくりの法と政策 PART 4—「戦後60年」の視点から』(文芸社・2006年) 単著  
ほか

<映画評論に関する著書>

後記のとおり

2 私の青春時代の映画メモ

- 1. <1949(昭和24)年生まれ>  
片岡千恵蔵  
東千代之介  
中村錦之助(萬屋錦之介)  
大川橋蔵  
美空ひばり  
東映 時代劇 全盛期
- 2. <小学生時代>  
1955(昭和30)年4月  
~1961(昭和36)年3月  
学校推薦映画  
『にあんちゃん』(1959年)  
東宝「戦争映画」  
『太平洋の翼』(1963年)  
大映 勝新太郎  
『秦・始皇帝』(1962年) など  
松竹  
『喜びも悲しみも幾歳月』(1957年)  
東宝  
『私は貝になりたい』(1959年)  
両親から聞いている
- 3. <中学時代>  
1961(昭和36)年4月  
~1964(昭和39)年3月  
洋画3本立て 55円  
名作映画  
『エデンの東』(1954年)  
『誰がために鐘は鳴る』(1943年)  
スウェーデン映画 『沈黙』(1963年)  
R指定で観れず  
日活映画3本立て  
吉永小百合・浜田光夫  
和泉雅子・山内賢  
松原千恵子  
西尾三枝子  
高橋英樹・和泉雅子  
『男の紋章』シリーズ(1963年~)  
試写会  
『シェルブールの雨傘』(1964年)  
学校推薦映画  
『スパルタカス』(1960年)  
『ベン・ハー』(1959年)  
『キング・オブ・キングス』(1961年)  
『サウンド・オブ・ミュージック』(1965年)  
歴史大作大好き  
『ドクトル・ジバゴ』(1965年)  
『アラビアのロレンス』(1962年)

4. <高校時代>

1964(昭和39)年4月  
~1967(昭和42)年3月

- 受験勉強  
石原裕次郎・芦川いづみ  
石原裕次郎・浅丘ルリ子  
小林旭  
「スクリーン」「映画の友」  
「将棋世界」「近代将棋」
- 5. <大学時代>  
1967(昭和42)年4月  
~1971(昭和46)年3月  
松山奥道後映画見放題  
大映 勝新太郎  
『座頭市』シリーズ(1962年~)  
『兵隊やくざ』シリーズ(1965年~)  
『悪名』シリーズ(1961年~)  
大映 市川雷蔵  
『忍びの者』シリーズ(1962年~)  
『眠狂四郎』シリーズ(1963年~)  
『陸軍中野学校』シリーズ(1966年~)  
松竹  
『男はつらいよ』シリーズ(1969年~)  
『幸福の黄色いハンカチ』(1977年)  
東映 高倉健  
『網走番外地』シリーズ(1965年~)  
東映 藤純子  
『緋牡丹博徒』シリーズ(1968年~)  
東映 菅原文太  
『仁義なき戦い』シリーズ(1973年~)  
(東映実録やくざ映画)

- 東宝 お盆戦争大作  
『日本のいちばん長い日』(1967年)  
『明治大帝と乃木将軍』(1959年)  
『太平洋奇跡の作戦 キスカ』(1965年)  
黒澤明 昔のもの 『姿三四郎』  
日活ロマンポルノ多数  
高倉美貴

6. <修習時代>

1972(昭和47)年4月  
~1974(昭和49)年3月

- 日活ロマンポルノ  
一条さゆり 『濡れた欲情』(1972年)  
(検察修習中)

7. <弁護士登録後>

- 1974 (昭和49)年4月～  
『人間の条件』(1959年～)全6作  
『戦争と人間』(1970年～)全3作  
年末年始はビデオ録り (β 2台・VHS 2台)  
洋画ベスト3  
1 『サウンド・オブ・ミュージック』(1965年)  
2 『ウエスト・サイド物語』(1961年)  
3 『ゴッドファーザー』(1972年)  
邦画ベスト3  
1 『砂の器』(1974年)  
2 『敦煌』(1988年)  
3 『幸福の黄色いハンカチ』(1977年)  
ミュージカル大好き  
劇団四季  
昭和3部作  
『李香蘭』『異国の丘』『南十字星』  
『キャッツ』『オペラ座の怪人』  
『レ・ミゼラブル』『アイーダ』  
『ライオンキング』『美女と野獣』etc.

8. <2001 (平成13)年以降>

- 2001年10月 ホームページ開設  
2002年6月 『シネマルームI』出版  
2003年8月 『シネマルームII』  
2004年4月 『シネマルームIII』  
11月 『シネマルーム4』  
12月 『坂和的中国電影大観  
SHOW-HEYシネマルーム5』  
2005年5月 『シネマルーム6』  
10月 『シネマルーム7』  
2006年2月 『シネマルーム8』  
7月 『シネマルーム9』  
2006年11月 『シネマルーム10』  
映画年間鑑賞数  
2001年 46本  
2002年 52本  
2003年 135本  
2004年 179本  
2005年 212本  
2006年 241本 (12/5日現在)

・純日本的な情感

『卍』『春琴抄』『細雪』(船場の4姉妹と次女、幸子の目線で描く長編)

第5 終戦後から1950年代の名作と『キネマ旬報』

- (1) 小津安二郎——『晩春』(49年)、『東京物語』(53年)、『秋日和』(60年)  
溝口健二——『西鶴一代女』(52年)、『雨月物語』(53年)、『山椒大夫』(54年)  
木下恵介——『カルメン故郷に帰る』(51年)、『二十四の瞳』(54年)  
成瀬巳喜男——『浮雲』(55年)  
今井正——『青い山脈』(49年)  
黒沢明——『わが青春に悔いなし』(46年)、『羅生門』(50年)  
(2) 『キネマ旬報』ベスト10 (1924年から)  
1959 (昭和34)年 9位 『鍵』(京マチ子)

第6 正月映画のイチオシ

- (1) 『それでもボクはやってない』(06年) (痴漢冤罪事件がテーマ)  
2009年から裁判員制度  
警察での取調べ → 検事取調べ → 起訴(保釈) → 第1回公判、証人調べ → 判決  
(2) 『愛の流刑地』(06年) (渡辺淳一の小説の映画化)  
性愛の極致で「殺して」との依頼は、殺人罪か嘱託殺人罪か?

以上

..... memo .....

第3 映画検定

- 6月25日 4級受験 7月26日 合格(通知が届いた日)  
12月3日 3級受験 平成19年1月発表

第4 谷崎潤一郎作品映画化一覧

(1) 純映画運動(1918年) (『映画検定 公式テキストブック』108～109頁)

梶山教正(映画青年)、谷崎潤一郎(作家)、小山内薫、田中栄三(新劇演出家)ら

- ①弁士の廃止、②女優の採用、③物語内容の現代化、④映像表現の革新、⑤演技・演出の写実化  
などを主張

国際活映、松竹、帝国キネマ、大正活映が後押し

梶山教正: 西洋演劇の影響を受けた新興演劇・新劇の俳優を使って『生の輝き』『深山の乙女』(19年)  
を監督し理論を実践

谷崎潤一郎: アメリカ帰りのトーマス栗原(栗原喜三郎)と協力して大活で映画をつくる

小山内薫: 歌舞伎興業から映画に乗り出した松竹で俳優養成にあたる

⇒松竹——『虞美人草』(21年)で栗原すみ子という日本で最初のスター女優が生まれる

日活——1923年に女優採用に切り換える

新派→現代劇

旧劇→時代劇

活動写真→映画という言葉に置き換わる

(2) 谷崎潤一郎作品映画化一覧

資料8

- ・倒錯的な夢想、耽美小説、エロ小説(?)

『卍』『痴人の愛』『刺青』

- ・芸術か、ワイセツか?

『鍵』『白昼夢』『紅閨夢』